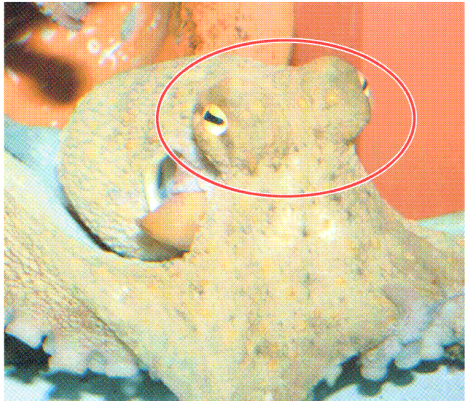
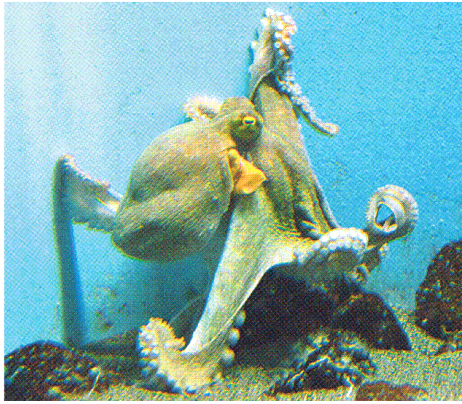




④目の周辺以外、体全体が軟らかいマダコ⑤赤い丸で囲んだ部分が通る穴であれば抜けられる

マダコ

学名 *Octopus vulgaris*

生息地 日本近海では本州から九州

全長 60センチぐらい（胴体の先から腕の先まで）

食べ物 貝（特に二枚貝）、小魚、エビ、カニなど

特徴 体表に網目模様がある。岩

の隙間に隠れることが多い

が、獲物を狙うときは、体

の色を周りの岩や砂と見分け

がつかないように変化させる

「擬態」をして、姿を隠す。

異なる二つの模様の床をまた

ぐように水槽を置くと、模様

の分かれ目に合わせて線を引き

いたように体の模様がそれ

ぞれ変わり、驚かされること

もある。タコの仲間では比較

的大型種。

小さな穴を抜けられる

「魚以外の海の生き物を描いて」と言うと、タコを選ぶ人が多いようです。西洋では「デビルフィッシュ」と呼ばれ、嫌われた歴史もあります。日本の食卓には登場す

るなじみ深い生き物です。タコの代表種であるマダコは、本州から九州の沿岸に広く分布しています。貝や小魚などを食べ、カニやエビが好物です。吸盤が付いた腕

頭として描かれる部分は、実は胴体で内臓がつまっています。また、タコはよく似ていますが、イカの吸盤にはスパイクのような爪がある一方、タコの吸盤は軟らかく、形を変えます。外側が硬い貝やカニ、エビに爪を食い込ませるのは難しく、なかなか捕まえられません。柔軟に張り付く軟らかい吸盤の方が、好物を捕まえるには有効なのです。（展示課海獣展示係

おもしろ生き物図鑑

がこしま水族館から

（一般に足と呼ばれる8本はすべて腕です）を器用に動かして、獲物を捕まえます。周りの模様に合わせて体の色を変えて姿をくらませるのが得意なので、目がいい小魚も気づかずに近づき、食べられてしまいます。

ます。頭は目の近くの硬く狭い部分。骨がなく軟らかいタコですが、頭だけが少し硬くなっています。頭さえ通れば小さな穴を抜けることが可能で、「目を通る穴なら抜けられる」といわれるくらい。潮が引いた海岸で、岩の小さな穴に灰と塩を混ぜたものを吹き込むと、どうやって入っていたのかと思うほど大きなタコが出てきます。

イカとタコはよく似ていますが、イカの吸盤にはスパイクのような爪がある一方、タコの吸盤は軟らかく、形を変えます。外側が硬い貝やカニ、エビに爪を食い込ませるのは難しく、なかなか捕まえられません。柔軟に張り付く軟らかい吸盤の方が、好物を捕まえるには有効なのです。（展示課海獣展示係

主任・船川賢治）